



ダイナミックな跳躍を見せる佐藤さん

輝いています

ひと

さとう だい ち
佐藤 大地 さん

埼玉県走幅跳中学チャンピオン

その1歩を跳び越えろ

誰

よりも遠くへ跳ぶことを競う種目「走幅跳」。

第一中学校3年生の佐藤大地さん(15歳・中央1丁目)は、今年県大会を連続で制覇した県随一のジュニア選手です。走ることや縄跳びが好きで、小学4年生で川口の陸上クラブに加入。「単純な動きを追求し、数字で競うのが楽しかったです」と幅広い種目に取り組みました。レベルの高い練習や仲間にも恵まれ、6年生では100メートル走幅跳で、県クラブ大会入賞。着実に成長する一方、全国小学生大会県予選はけがで途中棄権し、陸上競技の厳しさも知りました。悔しさを胸に中学で陸上を続けた佐藤さんは、記録の伸

びが大きい走幅跳で全国を目指す決断をします。関東選抜合宿ではコーチの助言を吟味し、有力選手の跳躍を研究。空中動作で体を反らす反り跳びを自分の物にしていきました。そして迎えた15歳の夏。全国へのチャンスは2回の県大会。しかし、6月の大会は、悪天候のなか小学校からのライバルを抑えて優勝するも、全国参加標準の6メートル55センチに1センチ及びませんでした。両足をそろえた着地ができれば記録は破れると分析した佐藤さん。課題に取り組んで臨んだ7月の大会は、5回目で標準記録を破り、2位で挑んだ最終跳躍は6メートル76センチに。夢の全国出場と逆転勝利を手に入れました。8月の全国中学校大会は、その勢いで7メートル近い跳躍を見せるも、踏切板を数センチ越えてファウルとなる悔しい結果に。雪辱を期し、21日から始まるもう一つの全国大会・ジュニアオリンピックに向けて、助走の精度を上げる練習をしている佐藤さん。「目標は県中学記録7メートル1センチの更新と優勝です」と意気込みます。1センチでも遠くに。その積み重ねはやがて大きな飛躍となり、憧れの世界の舞台まで届くはず。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり

—No.77—



現在は茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 暁斎
天保2年(1831)
～明治22年(1889)

暁斎は晩年の明治20年(1887)に、自画伝『暁斎画談』を出版しました。その中に、延遠館で県令たちが催した宴会に招かれ、8時間の間に118枚もの作品を描いたことが挿絵とともに紹介されています。この掛軸を収める箱には、明治18年(1885)6月27日にその延遠館で行われた宴会で、宮内省書記官が籤引きによりこの作品を手に入れたと書かれた書状も入っています。いつ、どこで描いたのかが分かる、たいへん貴重な作品の一つです。

河鍋暁斎記念美術館 開催中(24日まで)

企画展「暁斎・暁翠 動物画—いきものたちの世界—」展
同時開催 特別展「暁斎プラスワンシリーズ38 勇の蛙」展

開館 = 午前10時～午後4時 ところ = 南町4-36-4
休館 = 火・木曜日、毎月26日～末日、年末年始
入館料 = 一般600円 小・中学生300円
高校生・大学生500円
65歳以上500円
※65歳以上の人は年齢の分かる物、
学生は学生証をご提示ください
詳細 = 同館 ☎441・9780



本作品は現在の展覧会で御覧いただけます

暁斎筆「松上一鳥之図」
紙本墨画 軸装



詳しい内容は
美術館のホーム
ページを
参照ください